

授業概要

おもに社会思想史の観点からヨーロッパの人間観・社会観の変遷を扱います。ヨーロッパは多様な諸民族・諸文化が対立しつつ共存してきた地域です。日本を含む世界のどの地域も多文化社会となりつつある今、ヨーロッパの歴史・思想は、これからの社会のあり方を考える手掛かりにもなるはずです。

授業では、宗教と政治の関係、欲望と理性の関係、近代社会が目指してきたことなどの考察を通して、ヨーロッパが形成してきた諸理念・諸規範の意義や限界について講義します。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：授業の進め方、評価方法、注意事項などの説明。西洋思想の特徴
第 2 回	人間観と社会観のつながり①ギリシア神話（「イリアス」）を例に
第 3 回	人間観と社会観のつながり②ギリシア悲劇（「オイディプス」）を例に
第 4 回	古代ギリシアの社会思想：人間本性と社会制度
第 5 回	中世キリスト教：キリスト教の基本思想
第 6 回	古代・中世のまとめと補足：近代への影響
第 7 回	中世から近代へ：欲望の否定から欲望の肯定へ
第 8 回	近代の自然法思想①ホッブズ、欲望の追求と国家権力の役割
第 9 回	近代の自然法思想②ロック、所有権の重視と国家権力の正当性
第 10 回	理性への信頼①「進歩」という思想
第 11 回	理性への信頼②ヘーゲル、自由の対立から自由の共存へ
第 12 回	功利主義①社会制度の合理性・客観性の追求
第 13 回	功利主義②問題点と課題
第 14 回	近代合理主義への批判：ニーチェ
第 15 回	近代思想のまとめと現代思想の展望
第 16 回	期末試験（筆記試験）

到達目標

- ①人間観・社会観の変遷と多様性を理解すること
- ②地域・時代の異なる思想や文化を異文化として理解し、自文化や自分の考えを相対化する視点を養うこと

履修上の注意

予備知識は不用ですが、異なる思想・文化を理解するには想像力と集中力が必要です。したがって授業中は日常生活を遮断し、授業内容に集中することを求めます。

予習・復習

授業前に、前回のレジュメに目を通しておいてください。とくに指示した場合を除き、予習は求めません。講義で興味を持った事項や参考文献にあたって、理解を深め関心を広げることを望みます。

評価方法

定期試験（筆記試験）70 パーセント、受講態度（上記「履修上の注意」参照）および授業時のリアクションペーパー30 パーセント。

テキスト

特定のテキストは使用しない。授業時にレジュメを配布する。
参考文献は授業の進行と学生の関心に合わせて適宜紹介する。